

コートジボワール・アビジャン港

穀物バースが起工

施工監理＝オリコンサルグローバルJV
施 工＝東亜建設工業

コートジボワールのアビジャン自治港で「アビジャン港穀物バース建設事業」の起工式が16日、同国のアマドゥ・コネ運輸大臣ら要人が多数参加して行われた。写真。

約14層岸壁（長さ450m）、同13層岸壁（250m）、同10層岸壁（300m）を新設するほか、約10mの埋立工事、エプロン・道路舗装工事、ハーバーマスターコントロールタワー棟の建設などをJICA（国際協力機構）の円借款事業として行うもので、施工は東亜建設工業が担当。本邦技術活用条件（STEP）

が適用されているため、岸壁整備では軟弱地盤や大水深への対応に適している日本の技術を活用する。工期は790日。



オリエンタルコンサルタンツグローバルが準備調査と詳細設計に携わり、施工監理などのコンサルティングサービスについても同社を幹事会社と、エコー、アンジェロセックと構成する共同企業体が担当している。

アビジャン港は、同国の物流拠点であり、コンテナ取扱量で西アフリカ最大の港となっている。同港を起点に国際回廊や鉄道を介しマリやブルキナファソ、ニジェールなどのサヘル地域内陸国につながる玄関口として、同地域のハブ機能も担っている。

一方で同国内戦終結後の高い経済成長に伴う貨物需要の増大に対して港灣の既存インフラ、特に穀物用バースの拡張がいついておらず、その増強は同国政府にとって優先的に取り組むべき課題となっていた。

今回の事業で新規に穀物バースを整備することにより、入港する穀物貨物の平均積載量が約2倍となり、同国とサヘル地域内陸国の増大する穀物流通需要に応え、同地域内の経済活性化や食糧安全保障に貢献することが期待されている。